

第2章

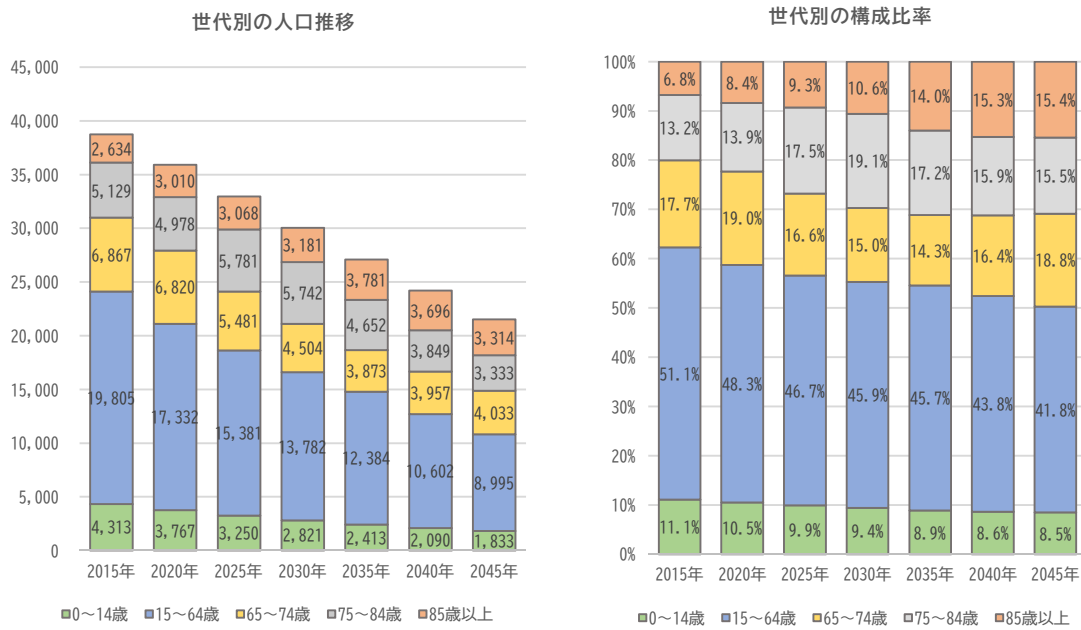
地域を取り巻く現状と課題

1. 白杵市の状況

(1) 白杵市の人口について

白杵市の人口は、2015年は38,748人でしたが、2020年には35,907人と5年間で2,841人減少しています。更に2025年には32,961人、2030年には30,030人まで減少すると予想されています。少子高齢化の進行で2035年には、65歳以上の高齢化率は45.4%に、15歳未満人口比率は8.9%に減少することが予想されます。

◎2020年までの人口および2025年以降の人口を下図のとおり予想しています。



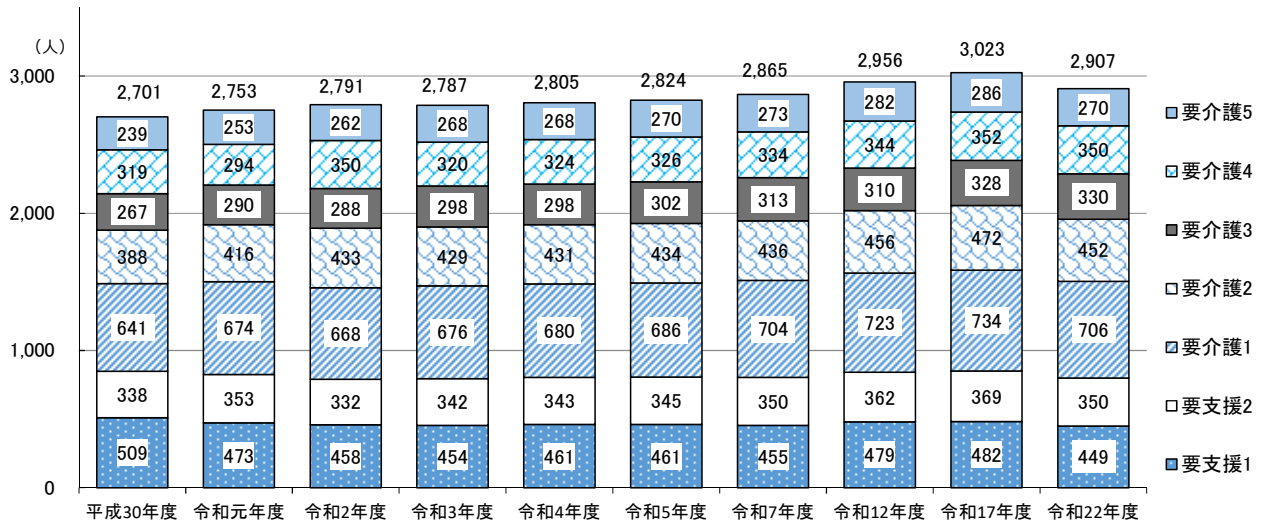
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30(2018)年推計)に基づいて試算

(2) 支援が必要な人等の状況

① 高齢者の状況 〈要介護(要支援)高齢者の推移〉

臼杵市の人口推計結果と、性別・年齢階級別の認定率から、今後の認定者数を推計すると、第8期計画の最終年度である令和5年度(2023年度)には、令和2年度と比べて33人増加の2,824人になると予想されています。

令和17年度には3,023人と、令和2年度より232人増加すると見込まれています。

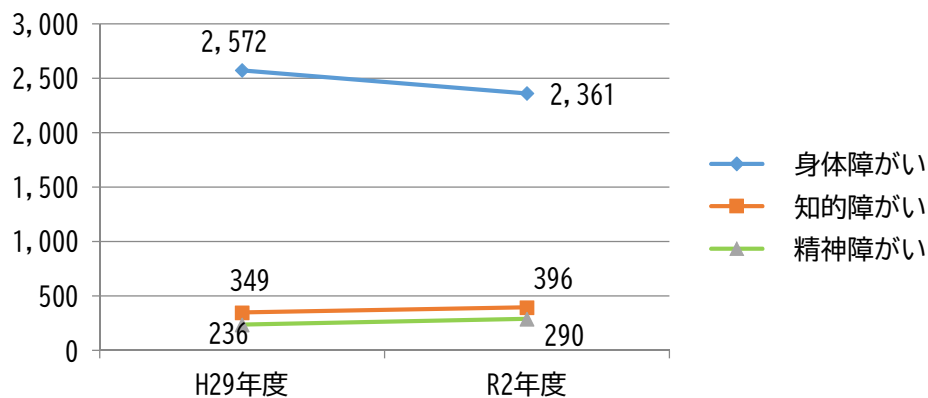


資料 平成30年度は「介護保険事業状況報告」年報、令和元年度は「介護保険事業状況報告」月報年度末値、令和2年度は「介護保険事業状況報告」9月月報、令和3年度以降は見える化システムによる推計値

② 障がい者(手帳保持者)の内訳別推移(平成29年度、令和2年度)

身体障がいの手帳保持者は減少傾向にあり、平成29年度から令和2年度までの3年間で、211人(8.2%)減少しています。

一方、知的、精神障がいの手帳保持者は増加傾向にあり、知的障がいについては同じ3年間で47人(13.4%)の増加、精神障がいについては54人(22.8%)の増加となっています。



2. 地域福祉の推進に取り組む主な団体等

(1)自治会(行政区)

自治会(行政区)は、地域住民の話し合いをはじめ、親睦や交流、困ったときの助け合いなど、快適な地域生活を行うことを目的に、一定の区域に住む人々で組織された団体です。

臼杵市では、現在303の行政区が組織されており、市政の円滑な推移を図るため、区と行政をつなぐ役割としてそれぞれの区に市長が委嘱する区長を1名配置しています。

(2)社会福祉協議会

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に規定する地域福祉を推進する団体です。臼杵市社会福祉協議会は、臼杵市における地域福祉の推進を目的に、地域やボランティア、関係機関、行政等の協力のもと、社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活発化を行っています。

(3)民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱され、わたしたちが暮らす地域で、住民の立場に立った援助活動を行っています。

臼杵市では、115人の委員が委嘱され、生活に困っている人や、高齢者、障がいのある方、ひとり親家庭、児童問題などの相談を受け、助言などを行っています。

(4)地域振興協議会

地域振興協議会は、区長会や民生委員・児童委員、老人クラブ、PTA、子ども会、スポーツ少年団、消防団等といった様々な団体が参加し、世代を超えて地域のみんなが参加できる地域活動を応援するための取組であり、旧小学校区をひとつの単位として組織されています。

3. 地域における現状と課題

(1) アンケート調査の概要

①調査の名称「地域福祉に関する市民意識調査」

②調査の目的

臼杵市地域福祉計画の策定にあたり、地域で助け合いや支え合い、地域活動への参加状況、地域における課題等地域福祉に関する市民意識を把握し、計画策定に向けた施策の方向性等を設定するための基礎資料とするとともに、地域福祉に関する市民の理解を得ることを目的に実施しました。

③調査の方法及び期間

方法：郵送による発送・回収

期間：発送日 令和3年11月18日(木)

締切日 令和3年12月10日(金)

④調査対象者、回収率

臼杵市民：2,000人

※住民基本台帳より満20歳以上90歳未満の市民を無作為抽出

※外国人登録者は除外

	発送数	未達数	回答数	回答率
合計	2,000	13	966	48.6%

⑤調査項目

全38問

- ・回答者に関する項目
- ・近所との関わりや支え合いについて
- ・地域活動、ボランティア活動について
- ・地域との関わりについて
- ・福祉の基盤づくりについて
- ・民生委員児童委員・社会福祉協議会について

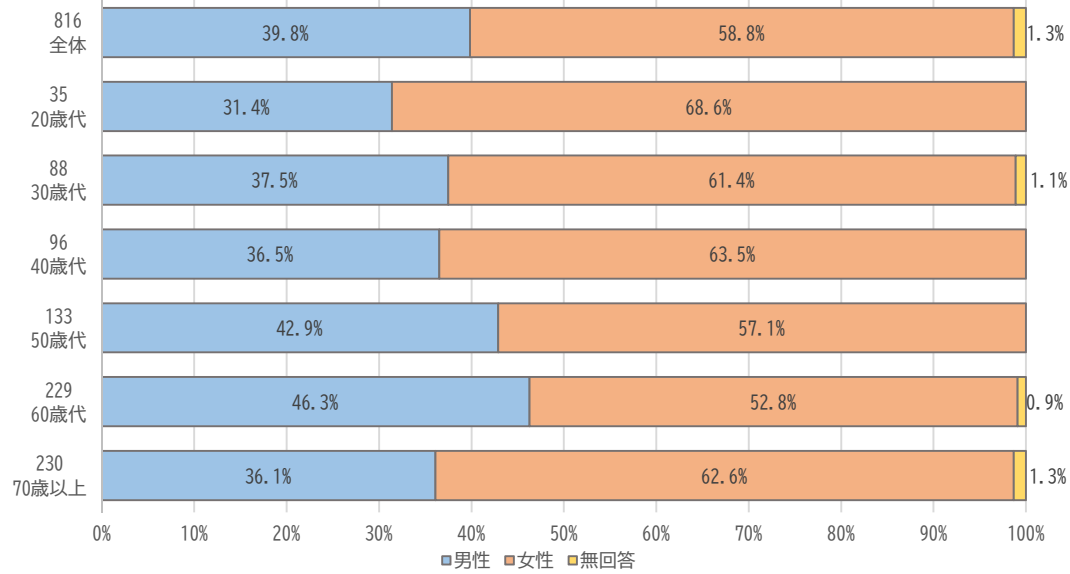
※令和3年(2021年)実施の調査から年齢の回答欄に「80歳以上」を追加しました。

(2) 調査の結果（抜粋）

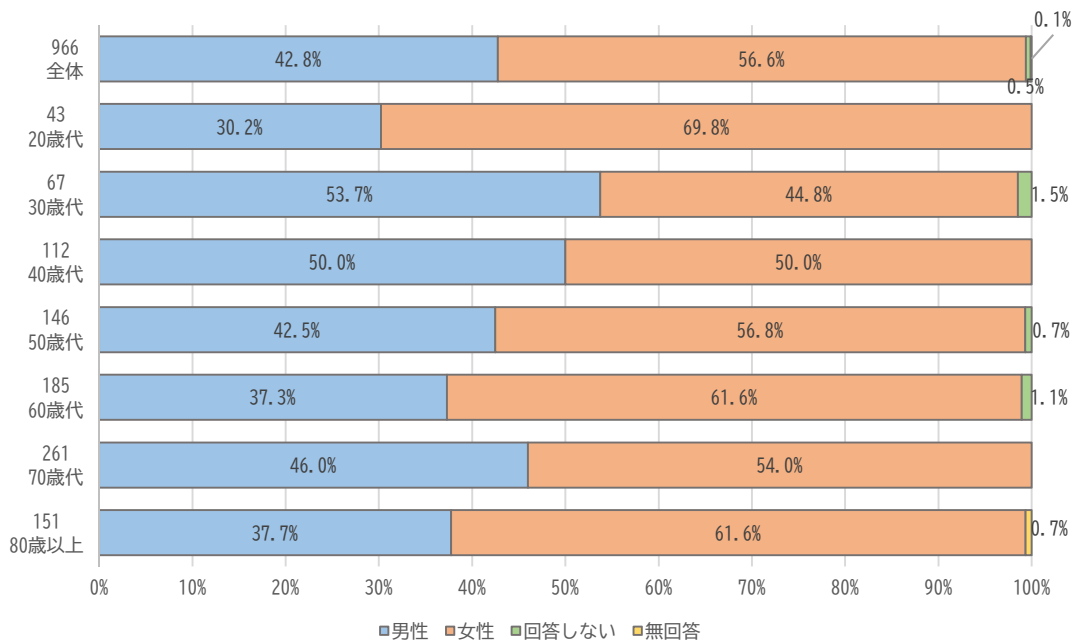
問1、2 回答者の性別・年齢

前回調査時に比べて、30～40歳代では男性の比率が上がりましたが、60歳代では女性の比率が上がっています。全体ではやや男性の比率が上がりました。

■前回調査(2016年)



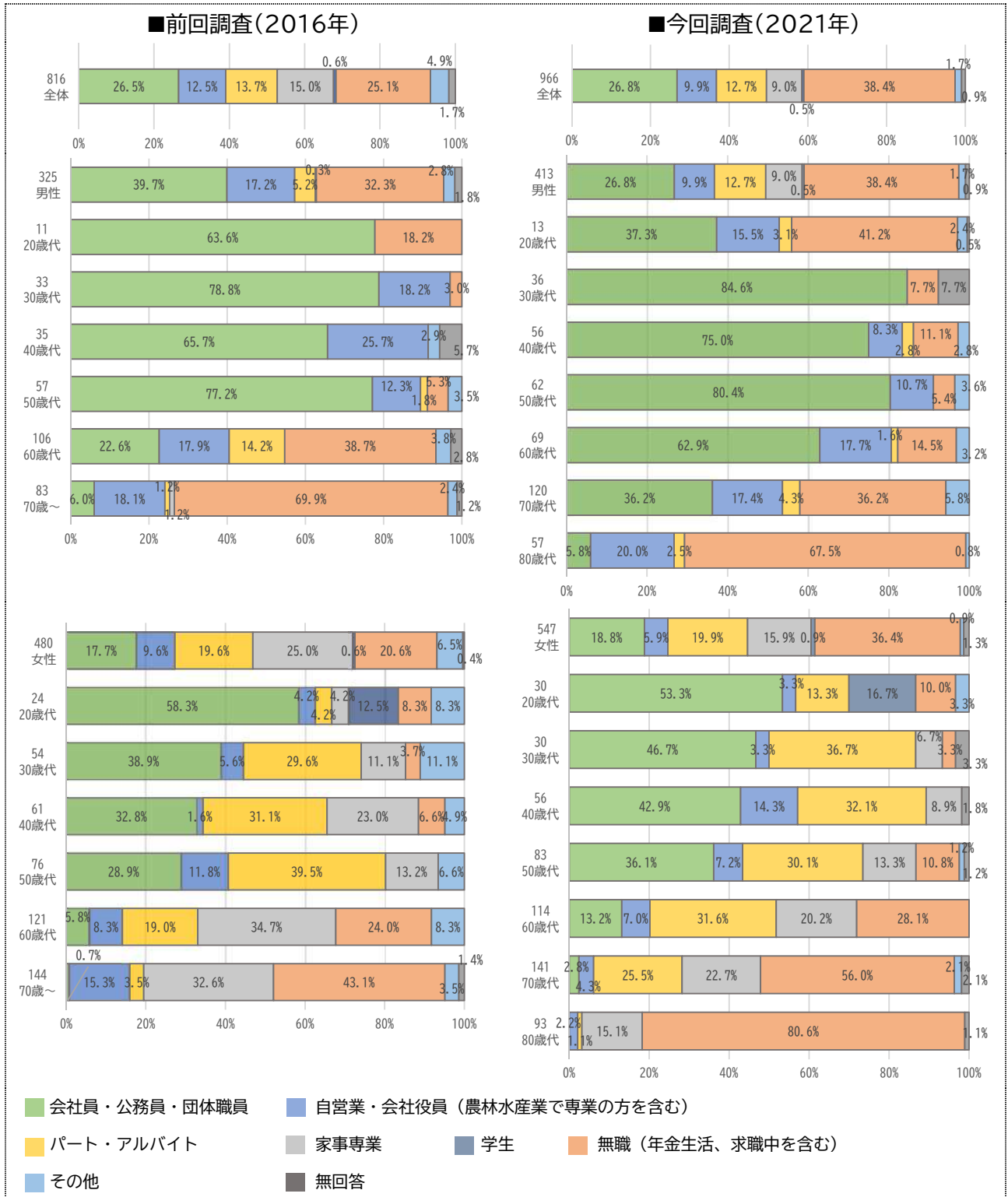
■今回調査(2021年)



◆第2章 地域を取り巻く現状と課題◆

問3 現在の職業

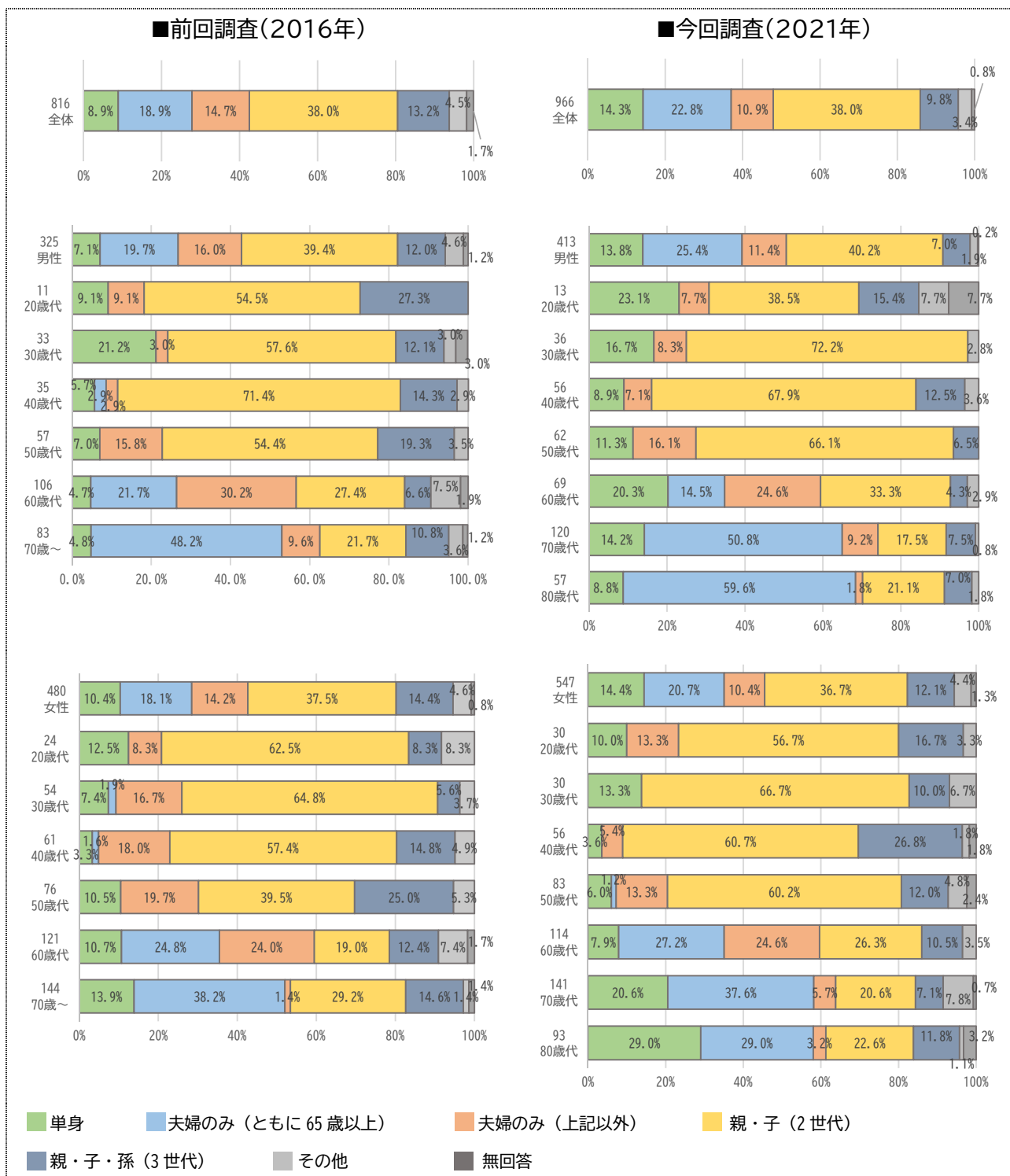
前回調査時より家事専業の方が減少し、無職の方が増加しています。



◆第2章 地域を取り巻く現状と課題◆

問4 家族構成

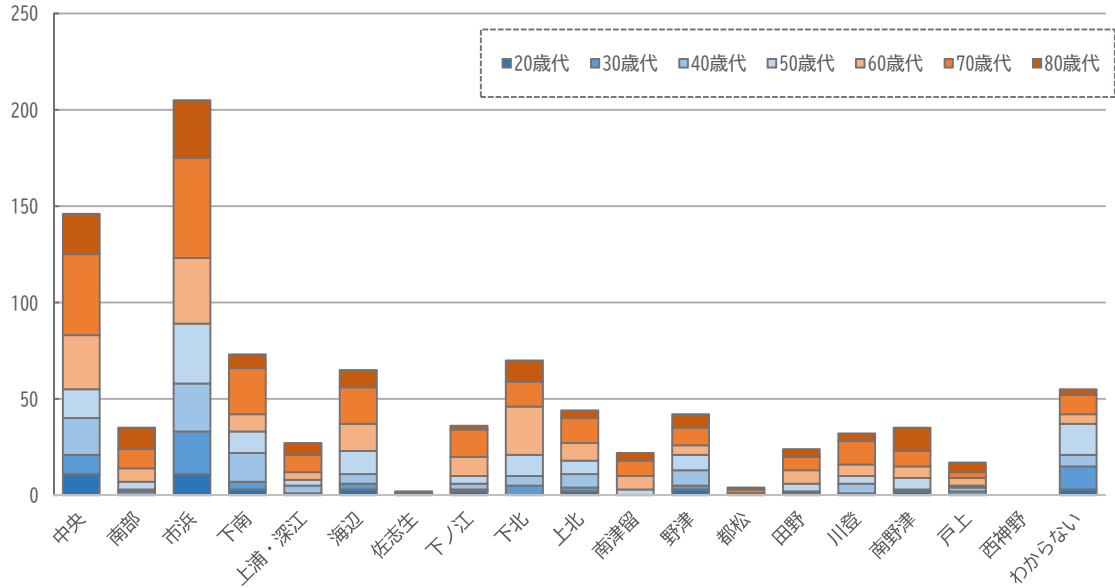
前回調査時に比べて、高齢者夫婦のみの世帯や70歳以上の単身世帯が増加しています。特に女性の80歳以上では単身世帯が29.0%に達しています。単身高齢者が増えることで、福祉サービスや地域住民の手助けを必要とする方が増えていきます。



◆第2章 地域を取り巻く現状と課題◆

問6 住まいの地域(地域振興協議会単位)

回答者を地域振興協議会ごとに集計しました。20～50歳代の現役世代を青色で、60歳代以上を赤色で表しています。50歳代以下で「わからない」と回答した方が多くなっています。



地域振興協議会名称	発送数	回答数	回答率	地域振興協議会名称	発送数	回答数	回答率
中央	286	147	51.4%	南津留	61	22	36.1%
南部	161	35	21.7%	野津	83	42	50.6%
市浜	454	205	45.2%	都松	8	4	50.0%
下南	139	73	52.5%	田野	52	24	46.2%
上浦・深江	103	27	26.2%	西神野	0	0	0.0%
海辺	143	65	45.5%	川登	60	32	53.3%
佐志生	1	2	200.0%	南野津	93	35	37.6%
下ノ江	82	36	43.9%	戸上	28	17	60.7%
下北	158	70	44.3%	集計対象外	14		
上北	74	44	59.5%				

◆第2章 地域を取り巻く現状と課題◆

問10 暮らしの経済的状況

男性は50歳代と70歳代で「ゆとりがある」「ややゆとりがある」と答えた方が他年代に比べて低くなっています。女性は男性に比べて「苦しい」と答えた方の比率がやや高く、特に50歳代では22.9%にのぼります。

